

第9回 松山市中心市市街地賑わい再生社会実験専門部会
議事録

- 日 時 平成30年11月9日(金)15:00～17:00
- 場 所 松山市役所 別館6階 第5委員会室
- 出席者 別紙出席者名簿参照

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

(開催挨拶、配布資料の確認、委員紹介)

4. 議事

【部会長】

皆さんこんにちは。今日はよろしくお願ひいたします。第9回の専門部会ということで、今まで8回会議を積み上げてきました。こうしたまちなかの広場、あるいはアーバンデザインセンターという動きは、最初の会をやった時は非常に小さな社会実験だったわけですが、その後、日本の各地に広がっています。アーバンデザインセンターを見学に来られる方々も増えていきますし、そうした活動が日本全国に広がっています。そんな中での、最初の活動だったんだということも含めて、この活動を地元の方々と一緒にどうやって今後やっていくのかということが、今日更に深めて議論できればと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

ではまず最初に、前回の意見概要と対応について説明をお願ひいたします。

(1)前回の意見概要・対応

【事務局】

(資料説明 P.1-1～P1-2)

【部会長】

前回の議論を踏まえて、どういった対応がなされたかということと、第8回から第9回にかけての変更についてご説明いただきました。委員の方々から何かご意見はございますでしょうか。

【委員】

移転する理由というか、目的があるとよいなと思いました。

【部会長】

どうですか。事務局から補足はありますか。

【事務局】

効果検証についてはこの後、詳しくご説明させていただきたいと思います。

【部会長】

はい、わかりました。理由の方はまた効果検証の中で、それを踏まえて議論できればと思います。では、次の議題をお願いいたします。

(2) 事業報告

【事務局】

(資料説明 P2-1～P2-5)

【部会長】

事業報告の報告について、ご意見はございますでしょうか。効果検証については、次の議題で取り上げます。まつやま文具マルシェは、販売とかあったのでしょうか。資料の印象からはなさそうですが。

【事務局】

広場とテラスでは主にワークショップを開催し、商店街の実際の文具店や別店舗にて、展示・販売会が開催されました。

【部会長】

どれくらい売上げはあったのでしょうか。

【事務局】

まだそこまでは聞いておりません。

【部会長】

おもしろいですね。役割分担ができていてよいですね。あと、天文部の取組みは、やっぱり暗いところでやりたいんだけど、暗いところだとそういう集まる場所がないからとか、そういう感じなんですかね。石手川で観せたくて、近くの場所で探すところだった、という感じなんですかね。

【事務局】

基本はやっぱり暗いところで、4月には堀之内で行いました。はじめは曇っていたんですけども、最後には晴れて結構星が観れました。今回は、アーバンデザインセンターの近くでということで、石手川が挙がりました。

【部会長】

わかりました。他にございますでしょうか。

よろしいでしょうか。では、効果検証の方、よろしく願いいたします。

(3) 効果検証

【事務局】

(資料説明 P3-1～P3-9)

【部会長】

それでは、効果の検証のところですけども、数字は非常に綿密に出していただいている、数量は拾えていますので、時間軸の中での変化ですとか、あるいは、ものによってはもうちょっと突っ込んでやると、イベントをどういうタイミングでやると一番集客できるのか、みたいなことについても、ノウハウが溜まりつつあるのかなと思います。今後に使えそうなデータが、まあデータベースという方がいいかもしれないですけども、溜まってきているというのは非常によかったのではないかと思います。いかがでしょうか。

【委員】

P3-3の、右下のところのイベント集客数の変数とイベント集客数の変数の相関というのは、どういう意味なんですか。みんなのひろばのイベントともぶるテラスのイベントを同時にやっているときってことですかね。

【事務局】

はい。そうなります。

【委員】

それが、60もある。

【事務局】

はい。

【部会長】

同時に、なんですか。どっちか、あるいは同時にやっているときに両方の変数をとって、それで相関をとったということですかね。多分そうですね。

【委員】

これはイベントの種類が違うんですね。

【事務局】

イベントの種類が違う場合もございますし、同じイベントで、テラスとひろば両方使っている場合もございます。

【部会長】

じゃあそれを変数にすると、多分なんか相乗効果があるとかないとか、ということも出るので、非常に面白いデータで、丁寧に毎回とられている成果だと思います。

【委員】

ありがとうございます。あと、今回お示しいただいたものについては、ちょっとまだ読み取り切れていないので、今後の追跡のところの話を、今ここでやってもいいんでしょうか。

【部会長】

いいと思います。

【委員】

追跡は、今回ラストチャンスなので、ここでいい材料が出れば。

【部会長】

追跡というのは、いわゆるストーキング調査ですか。

【事務局】

表現が悪かったかもしれないのですが、今現在、テラスとひろばに来ていただいている利用者の方にはアンケートにご協力いただいております。同意いただけただ方には、年明け2月頃を目途にアンケートを送らせていただいて、テラスとひろばが閉まった後の行動の部分の調査を行う予定でございます。

【部会長】

そういうことですか。

【委員】

こういうのをちゃんと丁寧にやっている事例を私は知らないのですが、ぜひやるといいんじゃないかと思ったのと、ただ、そうなると対象は、利用者なので一般市民。周辺店舗じゃなくて、利用している人という理解でいいですか。

【事務局】

今のところ、その予定でございます。

【委員】

了解です。あと、周辺店舗のその後も聞けたら。こちらに比べたら手間がかからない、移転してもそのうち聞けばいいだけなので、可能であればそれも考えていただきたいのと、あとこの利用者の場合は、今やっている効果検証もそれはそれでいいんですけども、ちょっと主観的なものを高めるという意味では増えたとか減ったとかになるんで、もう少し、行動がこう変わったという、客観的なものを高めるという意味では、例えば、ひろばやテラスがあると滞在時間が4時間なのが、不幸なことなんですけど、なくなったことによって2~3時間になったとか、数値としてデータとか、出せるものなのか。出せるとそっちの方が、説得力が増すと思っているんですけど。サンプル数が多くないと、なかなか傾向は出てこないかなとは思ってますけど。

【部会長】

どれくらいのサンプル数をとる予定ですか。

【事務局】

30 とればいいなと思っています。

【部会長】

アンケートで、ですか。

【事務局】

そうです。

【部会長】

もっと思い切って増やしてもという気はしますよね。ファンになってくれている人は結構いるのと、先ほどのご意見、非常に重要でした。サプライ(供給)とデマンド(需要)で、店舗側は確かにいろんな変化があると思いますので、そこは絶対と言っていいくらい、ちょっと調査をした方がどういうメカニズムがあったときにできていたのかってことがわかります。今後松山の中で、L字の再開発等もご

ございますから、そこに向けてどんなことをやっていくべきかとか、どんなプログラムをやっていったら、周辺にいい効果があるのかみたいなことの参考になると思いますので、店舗側の調査はぜひやってもらいたいということと、調査票が同じでもいいので、なんとかサンプルを増やせないかなと思います。多分、スタッフも含めて学生さんのアルバイトみたいな方々も行動変わると思いますし、いろんなステークホルダ(利害関係者)がいますので、ぜひそのところは考えていただけたら、多分すごくいいデータになると思いますので、お願いしたいなと思います。

【事務局】

店舗のアンケートは、何か月後位が効果的なんでしょうか。終わってすぐ、というのもちよっと。

【部会長】

何を計りたいかにもよりますよね。今まで店舗のアンケートってやっているんですけど。

【事務局】

ありましたけれども、頻度は少ないです。

【部会長】

そうですね。

【委員】

駐車場がほしいという方々は、駐車場があると売上げ上がるんですかね。どうなんでしょう。そのあたりも、今後のL字再開発に向けての示唆もあるので、どういう店舗がこういう広場だと良くて、どういう店舗が荷捌きや物流の確保というのが必要なのかみたいなのも、ネガティブに全て捉えるわけじゃなくて、やっぱり駐車場が必要なおところもあるはずなので。

【部会長】

確かにそうですね。我々も、反対の意見が出るとついついやっぱり、ちゃんと対応しなきゃということで、今までやってきたんですけども、無くなったときにどういう変化が出てののかってことを意識面も含めて聞くと、非常に重要ですね。今後も我々はいろんな活動をやって、反対の意見、賛成の意見、どう読めばいいか。それによって、分かることになると思いますので、そこのところはぜひやっていただきたいなと思います。非常に貴重な意見、ありがとうございました。他の委員の方は、どうでしょうか。

【委員】

総括として、ちょっと厳しい言い方をすると、広場ができれば人が増えたっていうのは、ちょっと軽い印象を受けています。数字の蓄積として、恒常的に子どもたちの数が増えていったらだど

か、アンケート調査でも子どもが行き交う姿が非常にいい印象を受けていたりとか、交流しているということが出てくることは、とてもいいなと。ただ、やっぱり店舗さんの方でも「どちらでもない」という方が一定層いるってところも、非常に根強い部分かなってところで、やっぱりまだまだかなというところは、感じる部分があります。

【部会長】

当たり前ですけどけど、駐車場をやめて整備しましたし、イベントもやっているのもそもそも増えているというところは一定の効果だろうと。

一番課題があるとしたら、なんですかね。

【委員】

目標設定というのが、人を集めることなのか、その場所をつくることで、流れを変えたりとかっていうところってというのが、設定が途中でぼんやりしてしまった部分はとても大きい課題だと思っています。例えば、ターゲットがファミリーなのであれば、ファミリーのイベントをたくさん仕掛けて、もうとにかくファミリー層に向けて充実した場所なんだよって、打つのも一つの方だったかなと思うので。エリア設定とターゲット設定、目的っていうものを、一つ構えていくのも、方向かなと。今後のことかもしれないですけど。

【部会長】

イベントは、すごい数やられていますよね。かなりの数のアソシエーションというか、関わってくる団体の方が紐づけされていて。結局、どういうイベントのなんか種類が多かったんですか。子ども向けが多かったんですかね。

【事務局】

詳細な分析はまだ整理をしている途中ではありますが、特に2年前からは、子ども向け、子育て世代をターゲットにしたイベントを主にUDCM主催で行っていることがありましたので、ひろばの使い方に関しては、子ども向けのイベントが多かったです。

【委員】

そういう意味では、とてもよかったなと。本当にとってもよかったなと思うのは、イベントに参画してくださる事業者さんたちが、あのテラスだったり、ひろばにたくさん来ることで、イベントの蓄積でやる、イベントする方たちの層が増えてきた。その人たちが交流して、一緒に何か新しいことをやろうとかが、すごく増えたのはとてもいいことだと思います。その次に、その人たちのことを一緒につないでいくような何かをやってください。イベントと一緒に仕掛けるとか。その人たちが、臨機応変にいろいろなイベントを提供できるような。折角あの広場が良くて、場所が良くて、いろいろやろうっていう方たちがいるんだったら、またその方たちにいろいろ提案してもらって、一緒にやったりするのも一つ

の手かなと思います。

【部会長】

イベントをする側の方を、一同に集めたようなことは、今までやったことはありますか。

【事務局】

ないですね。

【部会長】

この秋に、アーバンデザインセンターの運営会議っていうのをやったら、全国からすごく集まりましたよね。お互い悩みを打ち明けあって、こうやって、ああやってということで、盛り上がったのを見ますとアーバンデザインセンターって実はその活動をやらせてもらってますから、いろんなスタートアップの機能を付けたいだとかありましたけども、そこを束ねる力がだいぶ出来てきている気がします。それをやると、実際は何に困っているんだ、市はどういう支援をやったらいいんだとか、あるいは、そこで継続してやりたいとか、あるいは別のところとかですね。有料でもいいよとか、いろんな意見が出てくると思います。イベントあるいはアンケートもそういう方にも出していくと、非常に良くなるんじゃないかと思います。ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

【委員】

こういう結果でおもしろいなって思います。ずっと今まで言ってきたとおりかなと思います。次の発展性があるような形で活かしてもらえたらいいかなと思います。

【部会長】

ただ、今まで効果がないっていう側面も結構仰ってきていて、ぼんやりしているっていうのもないわけじゃない、ご指摘のとおりっていうところもあると思うんですけども。一番直すべき点っていうのがあるとしたら、どういったところですかね。

【委員】

基本的に難しいってのは、私はよくわかっているの。

【部会長】

仰っていましたね。

【委員】

皆さん本当にご苦勞をされているところだと思うんですけど。スタート地点の話とか、今、奇しくも

他の委員の方も仰ってましたけども、目的であるとか、その辺の部分っていうのが、もうちょっと共有できたら良かったかなとか、そういうところかなと思います。だから、次に活かすっていう話ですよ。次に活かす話では、場所は花園の話が出てきてますけど。そこもお城下のエリアに全部入っているので、同じエリア内という形でいくと、地元だったり、もっと広い範囲だったり、元々あるものだったりっていうのをどういう風にしていくかっていうのを、もうちょっと詰めてからやった方がよかったのかなって気がします。住環境とかそういうものは、非常にこの10年で変わっているのです。

【部会長】

なるほど。

【委員】

正直難しいのは、難しいんですよ。駐車場の話なんかは。実はわかっているけれども、もっと考えないといけないのは、実はもっと広いところにあって。でも、それはアーバンデザインセンターでやるのは大変なので、アーバンデザインセンターがやれることっていうのはこのままだと思います。精一杯やっている結果として、そんなもんだと思います。そんな簡単にできないと思ってるんで。だから、予算の話も含めて、こんな感じだったらこんなものでしょうねって言うのは、ありますね。

【部会長】

繰り返しですけど課題っていうのは、最初の目標設定のところ、重要だっていうことですか。

【委員】

そもそも、何のために作ったか。そしてそれをどういう形でやっていくかっていうところを、もうちょっと現場レベルで、先生レベルじゃなくて、現場レベルでもうちょっと詰めるべきかなという気がします。

【部会長】

ありがとうございます。ご意見にあったように、何のイベントを何のために、ネットワークができてきているので、少し詰めて追跡調査っていう企画も、いい指摘もいただいたので、そこをもう一回ちゃんとやるのが重要かなと思います。

他に、いかがでしょう。

【委員】

結果はその通りだと思うので。直接的な価値っていうのは、当然あれば使われ、イベントを打てば集まるし。

【部会長】

その通りですね。

【委員】

それは当然のことだという思いですね。だから、それがあって、先ほど言われたように流通が本当に回っているのかどうか。

【部会長】

そうですね。

【委員】

それが段々、活性化の賑わいって部分に有効手段なのかどうかですよ。あくまで継続性の問題もあると思うんですよ。だから、そこらの検証っていうのが、どういう風にできるのかなって思いますね。

【部会長】

そうですね。駐車場代をタダにしたら滞在時間が長くなるのかもしれない。いや、やっぱり目的がないと長くは居れないわけなんで。でも、駐車場有料だとやっぱりすぐ帰るとか、そういうところは、繰り返しですけども、追跡のところを行動調査みたいなものもあり得るのかもしれませんが、より定量的にとっていただいて、分析していただくところと思います。

他に、いかがでしょうか。

【委員】

皆さん言われている通り、やれば人が集まるというのは、その通りかなと思います。私は 2 つくらい質問があって。1 つは UDCM と広場ができて、人の流れがどう変わったかみたいな話で、通行量じゃなくて。じゃあ、その施設を目的に来た人たちが街にどう展開したのかとか。あるいは、街のイベントに来た人たちがここに立ち寄っていったのかというところが、その 2 つの側面があって。当然目指したのは、立ち寄りじゃなくて、この施設に来た人たちが街なかにどう展開していったのか、そのあたりが街にとっては大事かなと。どう評価するかというのはほんと難しいんですけど。さっきの文具のマルシェみたいな形で地域の人たちと組んで、展開できるようなイベントがされてたじゃないですか。それらの評価がどうだったのか、地域との関係性を作るみたいなことが、もう少し。こういう風な関係ができましたとか。市民活動グループっていうのはかなりできてきてると思うんですけど、じゃあ、商店街との関係性ってできたのかとか、そういうところに評価の視点がもう少しあっても良かったかなという気がします。

【部会長】

ありがとうございます。関係作りというところをしっかりと。パーソントリップ調査というようなことも議

論されているようですので、定量的に、来る前とそこで活動した後どこに行っているのか。その数字は押さえてもらいたいなど。ありがとうございます。

はい。それでは、最後に新施設での取組みの話です。

【事務局】

途中退席の委員がいらっしゃいます。

【部会長】

では、最後に一言。

【委員】

ちょっと時間で、途中退席になります。全体の総括は、もう先ほど、お話しさせていただいた通りで、公園がなくなることをすごい残念に思っている方々もたくさんいらっしゃいます。自分のところに「公園をなくさないようにはできないのか」という声もちろんありました。そこはしっかり、先ほど言われた追跡調査で無くなってからの話を、何で無くなったのか、無くなってどう思うのかを調べて、ちゃんとお伝えいただいたらいいんじゃないかなって思っています。それはそれで、一区切り置くことだと思いますので、新施設を作ることやアーバンデザインセンターが花園にできることで、大きい変化と言いますか、いい変化、流れ、だったり、最近花園ほんとに人多いですよねって言われるような結果につながることを、私たちは望んでいますんで、ぜひそういう施設になっていただけたらと思っています。とくかく職員さんであったり、受付の方だったり、学生の方だったり、皆さん、私も行かせていただいたんですが、皆さんほんとに精神誠意尽力させていただいたのは、感じてましたので、本当にありがとうございましたという言葉だけは、伝えさせていただきたいと思います。すみません、途中で。申し訳ありません。じゃあ、お先に失礼いたします。

【委員】

部会長、私もちょっと、すみません。

【部会長】

じゃあ、最後に一言。

【委員】

部会長のアイデアがあれば、多分花園はいい形になると思いますので、お願いいたします。

【部会長】

花園のためだけではなく、松山市全体のためにやるので、ぜひ L 字の再開発もあると思いますので。

【委員】

またよろしくお願ひします。すみませんでした。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは続きまして、新施設での取組みの話をよろしくお願ひいたします。

(4)新施設での取組み

【事務局】

(資料説明 P4-1)

【部会長】

どうもありがとうございました。現時点では、平日の10時から19時。休日は10時から18時ということで施設をオープンするという計画と。そして検証項目。実施内容はまちづくり活動の支援、公共空間の活用というお話でした。場所が変わるということですが、やることはそれほど変わらないと。花園町通りですと、マルシェとか既に始まっている活動もございませうため、何が効果かというところをもう少し。場所も変わって、変わったことでどういう効果があるかっていうのが浮き彫りになると思ひます。そうしたことを明らかにしていただくことで、松山市の中に予定されておひます様々な再開発地区に、どうひ公共のプログラム、あるいは私的なプログラムを入れていくべきか。あるいは駐車場はどうするのひ。そういった話につながっていくような新施設での取組みなのではないかなと思ひます。

間取りはもうこれで、今、工事は進んでいるんでしたっけ。

【事務局】

そうです。

【部会長】

アーバンデザインセンターに常駐される方がそこに4人ほどおられるんですけど、不満とか、どうひコンセプトかっていうのをぜひ聞かせていただけたらと。現在は2階ですよ。次は平屋になりますので、随分今までと違ひと思ひんですけど、そのあたりどうですかね。イベントにしても、使い勝手も今までと違ひと思ひんですけど、そのあたりどうでしょう。まだできてないから、なんともですかね。だひぶ議論はしましたよ。

【事務局】

まず、花園町通りは間口が狭くて、奥に長くなっているというひが、このまちの特徴ですので、そ

こは受け入れながら、まちに私たちの方が合わせていくことは必要かなと思っています。その中で、ワンフロアで展開していくわけなんですけども、細長い部屋を敢えてこう縦に割ることによって、よりその奥に引き込まれていくような空間作りを意識して、敢えてやっております。今までは、どちらかというと教室のような四角い広い場所で、みんなでスクールをやるというような場所でしたけれども、今度はどちらかと言うと、細長いギャラリーのような場所で活用していくということで。今までのような、レクチャーベースもしくはセミナーのようなものベースでやる活動から、おそらく展示物を出していくとか、出し方というか、市民とのコミュニケーションの取り方みたいなものは柔軟に変えていくと、効果が高いんじゃないかなと、考えておりますし、その方法について、これからどういう風にやっていくか少しわくわくしているところもございます。

【部会長】

松山はリノベを何度かやろうとしているんですけど、ちょっとうまくいっていないところと、いってるところとがあるんですよ。今回は、公共が入ってデザイン的にも、インパクトのあるリノベができていますので、ぜひ内覧会をちゃんとやっていただきたいと思います。何なら最初3か月くらいは内覧期間っていうところも聞くので、花園町通りの土地持ちの方とか過去にイベントをやってくださった方々をお招きして、中を見てもらってください。そうすると、自分のところの建築もこんな風に使えんじゃないかとか、多分アイデアが湧くと思うんですよ。ここを設計していただいたのは設計領域という会社なんですけど、そこじゃなくて地元の建築家の方をマッチングさせて、展開していくような、そういうモデルにさせていただけると投資した金額が戻っていくと思いますので、ぜひ花園町通りの不動産をお持ちの方に来ていただいて。結構作り方が面白い、インパクトがあると思うんですよ。こんな風のできる、あんな風のできる。きっと、アイデアが湧くと思います。中庭の使い方なんか、すごい面白いよね。ミュージアム的な機能もできたりしますので、ぜひ、そういうことを。オープンハウスのときって、案内届くとみんなわくわくしながら来たりしますので。そういうことをぜひ考えてもらえたらと。建築については、そういうことを思いました。

【事務局】

ありがとうございます。

【部会長】

まちづくりの支援活動というのは、基本的には今年度までやってきたことと同じことをやるという理解でよろしいですか。

【事務局】

もちろん今までやっていることもそうです。相談に来た人に対して、適切な助言を行います。例えば、図書館でこっそり活動しているような方たちとか、まちでこっそり活動しているような方たちが意外といることがこの4年間の社会実験でわかってきました。そういう人たちがもっとステップアップで

きるような支援をしたいと思っています。

【部会長】

何かやりたいなと思っている人を具体的な活動につなげる橋渡しのをどうやるんですか。ワークショップみたいな指導？それをアーバンデザインセンターのメンバーがやっていくのか、それとも外部の先生とか招いてやる話ですか。

【事務局】

基本的にはUDCM 先導型です。ただ、ものによっては、今、部会長が仰ったような外部の方に、適切な講師の方に来ていただいて、レクチャーやセミナーみたいなのも考えてはおります。

【部会長】

新しい拠点施設は鰻の寝床みたいになって、中で何やっているか全然わかんないので、そこは課題と言えば課題なんだよね。前のところは、全部ガラスだったので、中で何かやっていたら、ああやってるって感じだったんだけど、これちょっと見えなくなるもんね。これ、課題かなって感じがしますね。

【事務局】

そうですね。湊町三丁目のときは、路地まで引っ張るって意味合いもあったと思います。

【部会長】

そうですね。

【事務局】

今回は、秘密基地。秘密だと、ちょっと困るんですけど。どちらかというと基地的な、ここに人を集めると言うよりは、ここで作戦会議をする。そういう役割だと考えています。

【部会長】

なるほど。路上の活動は、逆に言うと既に結構始まっていますから、今後の活動の密度を上げていく支援っていう風に。先ほど、委員の方が折角言ってくさったんで、目標を明確にして、単純にそれが来たから歩行量が上がったとかじゃない、活動する側の支援として、レベルが上がったって言ってもらえるようにするって言うのは、結構いいかもしれないですね。そのためには、アーバンデザイン研究会とかいろいろやってきているんですけど、建築家やビジネスをやっておられる方などのレクチャーのコースみたいなものを作るとか、そういうところを補充していくのも一つの手かもしれないですね。事務局の話聞いて、ちょっと思いました。

アーバンデザインセンターをとにかく色々使って、使い回したと言ってもいい委員もいらっしやい

ますけれども。

【委員】

私は、今までこの議論に参加していなかったのですが、わかってないところもあるんですけど、今まで割とあの場所を舞台に、しかもアーバンデザインセンターが割と主体になってやるイベントを多く手掛けてこられていて、それはそれでいい側面もありました。逆に言うと、ここ赤い部分(花園町の新施設のテラススペース)で何かやるっていうのは少し難しさもあるので、ギャラリー的な情報発信に特化するような場所と考える方がいいんじゃないかなと思いました。となると、学生スタッフは今までと違う役割をやってもらう感じでしょうね。

【部会長】

深いですね。確かに、そうですね。

【委員】

プラットフォームの運営というか、市民活動を支えるマネジメントみたいなのをやってもらう。花園町の通りにいろいろ広場とかあるので、そこでちょこちょこやることはやるんでしょうけど。そんなにやる必要もないかなという気もします。

【事務局】

花園に移転したら、公共空間のパブリックスペースの舞台としては、極めて種類が豊かになるイメージがあります。花園町通りのような街路的な空間は、芝生コーナーみたいなものもあれば、ベンチの集まったコーナーみたいなものもあります。もうちょっと北へ行くと、城山公園っていう非常に大きな広がりを持った場所がありますし、南に行くと、市駅前の坊ちゃん広場のような交通量が極めて多いような場所もあったりするので、その活動目的にあった場所を選びながら、相応しい場所で活動を展開していくってことになるんじゃないかなと妄想しているところです。

【部会長】

オープンスペースの重心みたいなところ。確かにそれはそうかもしれない。

【委員】

そういう意味では、引き続き、学生スタッフは色々な公共空間で実験的にやっているという。今まででは広場ばかりでしたけど、そこに限定せず、城山、花園、坊ちゃん広場とかで活動をする。

【部会長】

堀之内をつなげたいというのは昔からありましたが、なかなか難しかったんですね。城山公園は資源。花園町だと、そこでの活動をつなげられそうな感じはする。アーバンデザインスクールでも

結構、議論に出てきていたので、ひょっとしたら何かできるかもしれない。だからむしろ、規模の大きなイベントとかができるかも。

【委員】

そう言う意味では、先ほど部会長が仰ったリノベ、空き家の効果的な使い方を示すというのと、公共空間の新しい使い方を積極的に示す場としては、面白そうなのになるんじゃないかと。

【部会長】

ところで、ミュージアムをやってもえませんか。画廊って結構、展示してますよね。個人でも、学校のサークルでも、絵を描くサークルとか、いろんなアーティストの人とかもいて。東京のアーティストとかでもいいんですよ。ここで何か展示をしてもらって。画廊って、結構儲かるらしいんだよね。そのスペースに作品を置くことで、かなりのお金を取るっていうのもあるので。アーバンデザインセンターは、儲けるとダメなんでしたっけ。

【事務局】

NPO は大丈夫です。

【部会長】

ここで儲けると、ダメなんですか。

【事務局】

実費相当を徴収するというのは OK ですが、儲け分をかき増しするのは NG ということで、今までやってきました。

【部会長】

花園町通りに決定的に欠けているのは、文化の機能。今回(花園町の新施設に)ブンカ・ラボが入るとというのが、実は非常に大きな転機です。言葉に関しては松山市さん、かなりいろんな活動をやられていて、坂の上の雲ミュージアムができたんですが、街なかに文化施設がないので、花園町通りに文化っていうものが入るっていうのが今回大きな変化です。ブンカ・ラボの活動をうまく、コラボレーションできるとかなり大きな活動になるのかなと思っています。ぜひ、ギャラリーとしての使い方をアーバンデザインセンターさんでも、ご検討いただけたらなという風に思いました。

他の委員の方は、何かございますか。アートは関係ないので、すみません。

【委員】

ここに移ってよかったと思えるような、形にならないといけんかなと思うんですね。その目玉って何なんかって。例えば、さっき新しい使い方、リノベーションの見本みたいな、ここでこんな多様な使い

方ができるんですよ、っていう見本ができるかどうか。ある時はカフェでやったりとか、ある時はギャラリーだったりとか、その多様な使い方がここで示せることがすごく大事になって。あと、リノベーションして、そういう風に使えるっていう。ある人はそれをビジネスでやっていきます。ある人は、そうじゃない使い方ですとか、それが示されるということがすごく大事なことだと思います。もう一つは、社会的に起業を支援するって話になったときに、この場だけではなくて、市内のいろんな場がこういう社会的な場所として、適用できるかとか。こういう場が使えますとか。路上を使ってこんなことをやったらどうですか？とか。要するに、場を押しえて、そういうことならここ使ってやったらどうですか？とか似たような場所とかを言えるような役割を担うとすごく相談が増えて来ると思うんです。起業支援を図っていくようなことができていくような、ここがちっちゃな拠点としてあるということは、スペースではなくて、そういう大きな機能がここにかかってくるようなものになっていくと、街なかによってすごく豊かなものを提供していく拠点になっていくじゃないかなという風に思います。

【部会長】

公共空間の予約みたいなことをアーバンデザインセンターでやるというのは、可能性はあるんですかね。花園町通りのこの区画を貸出すとか。その窓口をアーバンデザインセンターがやる可能性はあるのでしょうか。道路占有とか。

【事務局】

花園のまちづくり協議会がやっています。

【部会長】

実際には花園町通りの人たちがやってくると。あと、アーバンデザインセンターが堀之内の城山公園の窓口の一つになることはできないんですか。

【事務局】

伊予鉄道が指定管理を受けています。

【部会長】

難しいということですか。先ほどのご提案は、すごく可能性を感じますよね。確かに、街なか広場での経験があるので、何か所かサイズの違うものを持っていて、常時そこで何をやりますかってことを隠れ家というか基地のところで議論をする、みたいなことをできるといい。場所を持ってないなら、そこは繋ぐでもいいんですけど。リノベは、リノベ塾みたいなのをやったら良さそうな気はしますよね。まあ、地元の士会とかのネットワークもできつつあるので、今まで UDCM のシニアディレクターにもすごく相談してきましたけれども、地元の活性化がメインですので、今度は地元の建築家の方々にでばってもらってやると。当然、建築家だけではなくて。ぜひ、お考えください。

【事務局】

士会とも調整できはじめましたので、来ていただくようにします。

【部会長】

ぜひ、お願いします。他に、いかがでしょうか。

【委員】

街の活性化っていうのは、なかなか期待できないんじゃないかと私は思っています。というのは、もうマルシェなど地元の方々で街路イベントが行われていて、堀之内イベントも頻繁に行われています。そういった関係の部分があって、比較が難しいんじゃないかというのも、当然あるだろうし、逆に言えば、先ほど他の委員の方も言ったように、花園町通りを賑やかにする、地元事業者との集まりの拠点として、街路を使っただけの日常イベントやプログラムをここでやって、それを実施する支援をしていただける機能としてあれば、すごく活用できると思います。

【部会長】

なるほど。ありがとうございます。お三方からの意見で共通しているのは、頭を相当切り替えた方がいいってことですよね。私もここまで、意見が揃うと思っていなかったんですけど。やっぱり、基本構成が全く違うので、アーバンデザインセンターとしては頭を切り替えて、目的をリセットではないんですけど、今までの蓄積を活かして少し変えていくっていうのが重要だと思います。あと、所管部署の特性も含めて、ビルや建築の再価値化っていうんですかね。それを後押しするようなプログラムをぜひこの赤色の領域(花園町の新施設のテラススペース)で展開するということに力点を。今回初めての試みとしてやっていくというのが、どうやら新施設での取組みとしては、よさそうだと言うこと。ただ、ゼロベースというわけでもなくて、今までイベントをやってきた方だとか、花園町通りのデザインマネジメントの中でも、いろんな方との関係もできていますので、不動産とプログラムのマッチングも含めてですね、最初は手探りだろうと思いますけど、また新しいチャレンジだと思って、積極的にやっていただけたらと思います。あと、公共空間の使い方に関しては、引き続きお願いしたいと思います。花園町通りは前回と比べて、どこを使うのかっていうのが難しくなるんだと思うんです。だから、そのつなぎという観点で、様々な公共空間の窓口になれるような形がいいのかなという風に思います。ちょっと手間は増えるんですけども、そういう形で松山の公共空間の使い手と場所を繋ぐ装置として機能するということを目指していただくのがいいのかと。従って、この活動指標や関連指標というのを、一応計りはしますけれども、少し今までと違う評価を目指していただいて、賑わい創出ということに関しては、広場あるいはテラスとひろばは一定の効果があったとそういった総括でいいと思いますが、質的なものを作ろうとするところに次は行く、というところまでいくと。それが次のミッションだという整理でいいかなと思いました。

だいぶテクニカルな調査の意見が出たのは、ものすごく価値のある結果が出そうなので、ちょっと考えてやっていただくと、いい成果になると。そこだけ、ちょっとご意見いただいた委員の方に予

めご相談していただいてやっていただくといいと思いました。

活動拠点が移転しても、フィールドは街なか全体なので、専門部会の中で出た意見を参考にしつつ、今後も引き続き、取り組んでほしいと思います。以上で、本日の議事は、全て終了しました。本日の議題全体含めて、ご意見やご質問はございますでしょうか。委員の方、どうですか。

【委員】

いえ。

【部会長】

今日は、今までにない議論になって、場所が違うということもあると思うんですが。委員の方が言われていたように、どういうことだったかを地元の方に伝えるというのを、いろいろと考えてくださっているようですので、どういうことで移転するんだということは、ぜひ丁寧に伝えることは、アーバンデザインセンター一丸となってやっていただけたらと思います。その点だけ、何卒よろしく願いいたします。では、事務局にお返しいたします。

5. 閉会

【事務局】

今日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございました。

この社会実験は、ここにいらっしゃる委員の皆さまをはじめ、多くの関係者の方によって支えられております。本日皆さまからいただいたご意見を事務局の中でも検討させていただきまして、今後の社会実験に、より良く反映していきたいと思います。それでは、今後より一層賑わい再生に努めて参りたいと思いますので、引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、第9回中心市街地賑わい再生社会実験専門部会を閉会いたします。本日は、どうもありがとうございました。

以上